

北アルプス：西穂高岳

◆日程 2022年1月15日(土)～16日(日)

◆メンバー L：SD、TY、OY

厳冬期の西穂高岳に挑戦、天候に恵まれ頂上を踏むことができた。独標から先はかなりグレードが上がるため、過去の記録も読み込み、YouTubeの動画もかなり見て研究した。結果的にはピラミッドピークまでは無風快晴で最高の展望を見ることができたが西穂高岳頂上に着いたときには完全にガスの中で風も出てきたため写真を撮ってすぐに下山を開始した。

下YNは暴風雪となりホワイトアウトでトレースも消えかかっている内心焦っていた。間違った尾根を下りないように落ち着いて正しいルートを進むことに集中した。西穂山荘がガスの中に見えたときはホッとした。今回の山行は冬山の息を呑む様な美しさと凶暴さを存分に味わうことが出来た。ひりつく様な緊張感は冬山でしか感じることは出来ないだろう。

(記：SD)

<TYの報告>

1月15日(土) 天候：快晴

思えば厳冬期の北アルプスの頂を踏んだことはありませんでした。天候に恵まれる事は少なく中止や撤退も覚悟しつつ山行当日を迎えました。横浜から新穂高まで目立った渋滞もなく快適に移動出来ました。年末より格段に雪が増え寒波による厳冬期の厳しさを感じました。

山頂駅からは降雪直後の雪に踏み抜きを繰り返したのでワカンをつけました。快晴の中、西穂高岳が眩しく西穂山荘を目指しました。テント場には数張りのテントがあり楽しげな声が聞こえました。丸山手前まで歩いてみると風が強く寒くて明日のアタックが思いやられました。

久々の共同テントで鍋を突っつき楽しく夜を過ごしました。

CT 上大岡駅前 5:30→新穂高ロープウェイ駐車場 10:00→

山頂駅 11:40・・・西穂山荘 13:30(設営)・・・丸山手前・・・西穂山荘 15:30

夕食 17:00/就寝 20:00

1月16日(日) 天候：晴れのち雪

先行者が早立ちする中、やや遅れて6:15に出発しました。抜群の眺望を楽しみながらまずは独標まで歩いて写真を撮りました。稜線は雪が少なくワカンは付けずアイゼンで歩きました。奥穂が近くに見えいつか縦走したいと思いました。

山頂が近づいた頃には下からガスも近づいてあつという間にガスに包まれました。展望は無かったけれど登頂出来たことは感慨深かったです。下りは2時間程度であつという間に西穂山荘まで戻れました。

寒さ重さに負けずもっと登りたいです。

(記：TY)

CT：西穂山荘 6:15・・・独標 8:45・・・西穂高岳 9:30・・・西穂山荘 11:30(撤収)・・・

ロープウェイ山頂駅 13:45

<OYの報告>

1月15日(土) 天候：晴れ

保土ヶ谷バイパス、東名は交通量が多く、新島々を過ぎたあたりか路面は積雪状態であったが、順調に10時頃には新穂高温泉に着くことができた。登山者用駐車場に車を止め、身支度をする。新穂高温泉周辺の道路は除雪されておりそれほどの積雪はないが、山々の様子を見るとかなりの積雪が予想される。積雪の状況はケーブルカーに乗るとより鮮明になり、後方(西)には笠ヶ岳、前方(北側)もかなりの積雪が認められる。

ロープウェイを降り、まずは西穂山荘を目指す。ロープウェイ駅周辺は散策路となっているが、膝下程度の深さがある溝状のトレースが付いていた。先行登山者のトレースと判断し安心してつぼ足で歩を進めると、かなりの確率で踏み抜いてしまう。なかなか進むことができないのでワカンを着けることにした。ワカン装着後は順調に進むことができ、散策路を離れ登山道に入るとさらに新雪が深いようで、ワカンでも踏み抜きそうになるほどの積雪であった。暫くはなだらかな登りであったが、西穂山荘までの残り150mはかなりの急登で、冬山テント泊装備でのワカン歩行はかなり堪えたが、13時30分ころ西穂山荘に到着した。新穂高温泉では十数名が西穂高岳方面を目指したと聞いていたが、テント場は我々を含め4組程度であった。テントを設営し明日に備えた。

1月16日(日) 天候：晴れのち雪

4:30頃起床。天気予報通り晴れており、月が煌々と照っている。朝食のラーメンを食し身支度を整える。気温がかなり低いようなので、いつもより着込んで出発する。昨日までは樹林帯であったが、山荘から先は森林限界、木々はない。風が強いせいだろうか、昨日まで積雪路とは違い、かなり締まった雪質でアイゼンの効きもよい。風は少し強く気温も低い、天候は晴れ丸山から独標を目指す。比較的急な斜面を登り続けると岩と雪のミックスの急斜面があらわる。前週はかなりの雪が降っているはずであるが、新雪は見られず変わらず締まった雪のため、安心して進むことができた。この斜面を登りきると独標に着いた。独標からの眺望は素晴らしく、西穂からのジャンダルム、奥穂が一望できるほか、360度の眺望が楽しめた。

独標からの下りは少し急で、雪と岩のミックスではあるが、ロープを使うほどではなかった。皆フリーでクライムダウンしピラミッドピークを目指す。独標あたりから風が止み、晴天の素晴らしい天気であったが、長続きはせずガスが上がってきて、やがて雪が降り始めた。時間的には西穂山頂を狙える時間であったため先を急いだ。ピラミッドピークからの下り、両側が切れ落ち新雪の積もった斜面を降りる。少し緊張をするが、スタンスはしっかりしており慎重に下りれば問題ない。一度下降したのち、再び西穂山頂を目指す。この辺りから雪が降り始め風も強くなる。天気予報では午後から風が強くなり天候が悪化する。すでに兆候は見えていたのでひたすら山頂を目指し力を振り絞った。再び雪と岩のミックス急斜面が現れた。下りの登山者と遭遇したが道を譲ってくれた。登るしかない。下り登山者とすれ違い上を見上げた時、そこは西穂高岳頂上直下だと聞かされた。少し登ると頂上標識が目に見え込んできた。奇跡である。冬の北アルプス、西穂高岳に登頂することは思ってもいなかった。今季は冬型の気圧配置が続き積雪も多い。そんな中、週末の1.5日が晴れるという奇跡、その日に登山ができる偶然。かなり苦しい登山ではあったが、幸運と仲間が登頂へ導いてくれたと感謝している。

(記：OY)